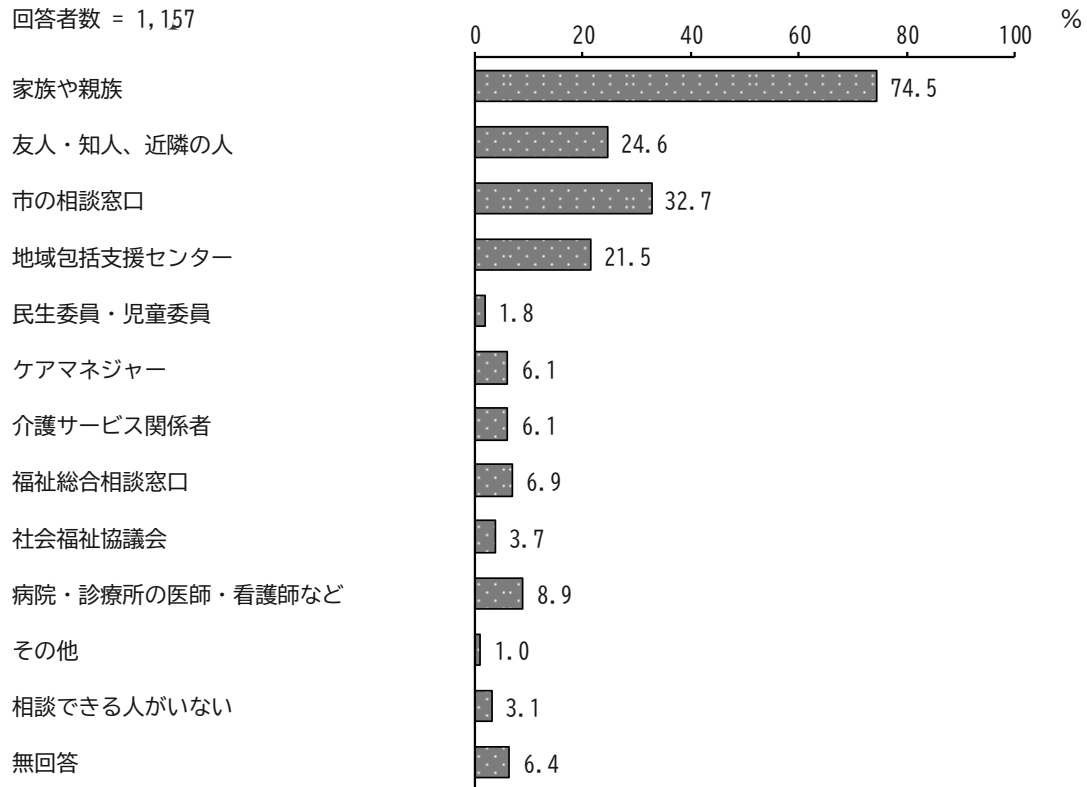


問 13 (16) あなたは、暮らしの問題や福祉について困りごとがあったとき、どこに
(誰に) 相談しますか。(いくつでも○)

「家族や親族」の割合が 74.5%と最も高く、次いで「市の相談窓口」の割合が 32.7%、「友人・知人、近隣の人」の割合が 24.6%となっています。

回答者数 = 1,157



問 17 (6) 高齢者支援施策について、小金井市へのご意見・ご要望や知りたい情報がありましたら、ご自由にお書きください。

- ・自身が高齢者となったが、現在親の面倒をみている為、自由になる時間があまり取れないでいる。もっと身近に、学習センター等の施設があれば、自然と交流が図れると思う。
- ・高齢になると行動範囲も決められてしまうのでまず向こう三軒両隣りの方達と、日常、お茶のみからでも行動して仲良くすることが大事だと思います。生き生きおしゃべりも大事だと思います。
- ・年金額が低い人に生活保護以外の経済的支援を充実させてほしい。介護保険料が高い。訪問介護、デイサービスを必要なだけ利用できず、市外の特養に入るしかなかった例がある。
- ・困難なときに、相談にのって寄り添ってくれるような行政であって欲しい。
- ・現在は夫婦共に 80 才超の健常者ですが要支援、要介護になった時に直ぐにその支援を得られるような制度、仕組みを整えて欲しい。
- ・高齢者が自立した生活ができるようなサポートを充実。また介護にたずさわる施設や人材への手厚いサポートや財政的支援を充実させるべきと思います。
- ・ミニバスのルート拡大と本数増加と運賃の値上げしない事を希望します。(自転車も車道で車にあおられて高齢者は乗れなくなっています。) 買物のイベントの足としてやはりミニバスの存在は重要と思います。
- ・健康で働く意欲があり、働ける力がある人のための仕事を確保してほしい。シルバー人材センターをもう少し進化させたような。
- ・市報やこがねい新聞等に色々なサービス等について載せてほしいと思います！市のホームページも若干わかりづらい所があると感じました。
- ・自宅で一人暮らしになっても安心してくらせるようなシステム作りをしてほしいです。
- ・今は夫婦共に健康で、大きな問題はありませんが、1 人になった時、大病をかかえた時に、気軽に相談できるようなところがあれば良いと思います。
- ・80 過ぎの高齢夫婦です。元気な年寄りが生きがいを感じる様な趣味、健康について仲間が集まる機会をもっと作って欲しい。(公民館の行事は店員が少なく、一度出席すると次回は抽選に落ちる) 元気な高齢者にもっと生きがいを与える機会を作って欲しい！元気な高齢者が行く所がなく家にひきこもりがちです。
- ・現在高齢者支援サービスについて、どのような施策が行われているのか、具体的リストがあれば知りたい。
- ・苦言がある。CoCo バスを利用しているが道が狭いため、小型バスの運用で 1 時間に 2 本が現状の体制。小型バスで乗れない時もあり、本数を増やしてもらえれば助かる老人が多いと思う。買い物に行き、重たい荷物を運ぶには、CoCo バスが「生活の足」であることを理解してもらいたい。
- ・最後は一人になる時期が到来した場合の介護支援や最後の看取支援が十分にケアされる事を望みます。
- ・高齢者への福祉制度や支援内容、担当窓口も含めて詳細を一覧できるような冊子を配布していただけたら助かります。

(注) 主な意見として回答を抜粋し、原文のまま掲載しています。

問 38 高齢者支援施策について、小金井市へのご意見・ご要望や知りたい情報がありましたら、ご自由にお書きください。

- ・要介護の人の病院へ行く時タクシーでないと行けないのでタクシー代の補助してもらいたいです。
- ・車イスを利用するようになり、介護タクシーを利用することが多くなりました。急な体調不良の時、予約をしてもなかなかスムーズに予約がとれないこともあります。もっと介護タクシーを増やしていただきたいです。
- ・市内に特別養護老人ホーム的な介護施設を設置して欲しい。
- ・車イスでもっと外出しやすい（安全）道路の整備。
- ・認知症の高齢者を家族で介護する事は大変です。ましてや老々介護であれば介助者も共倒れになります。介護を受ける者と共にそれを助ける介助者へのケア、考えていただきたい。
- ・高齢者に対する情報やサービス等の広報をもっと増やして欲しい。
- ・小金井市の緊急通報サービスを、心失患のある人などの制限をなくし、一人暮らしに不安のある方すべてに対応して欲しい。
- ・より高齢者が住みやすい町づくり、福祉の充実を希望、期待します。
- ・高齢で今は普通に暮しているが、いざという時、訪問診療してくれる医師がいない。主治医も訪問診療していない。是非、医師会と連携して、訪問診療する医師を増やしてほしい。
- ・介護老人福祉施設の職員の皆様のお陰で本人の穏やかな日常生活が守られています。職員の皆様が在宅で生活していた時にお世話になった介護に関わるすべての皆様の大幅な待遇改善を強く求めます。
- ・運転免許を返上する方向に世間は向かっています。CoCo バスの巡回等を改善していくことが、高齢者にとって住みやすくなると思います。
- ・介護認定を受けた時点で、オムツやRパンツなどの援助が欲しい。他の地域は、小金井と違い、要介1から1割負担でRパンツが買える。物価も高騰しているので、年金住らしの者には経済的に厳しい。
- ・そもそも介護サービスには何があるのか、何ができるのかもっと PR すべき。どこに相談してよいのかもっとわかりやすく多くの人が理解できるように、活用できるように、すべきである。

(注) 主な意見として回答を抜粋し、原文のまま掲載しています。

問 49 高齢者支援施策について、小金井市へのご意見・ご要望や知りたい情報などがありましたら、ご自由にお書きください。

- ・介護予防・日常生活支援総合事業で利用曜日が5回あれば利用できるのは4日、1回45分というのが、なかなか理解できない。5回目を自費で利用されている人もいるが、5回利用されている人もおり、バラバラ。事業所が選択するようになっているのか。公平性から言っても、決めてほしい。
- ・人材確保がままならない状況を解決してほしい。
- ・介護保険改正時の、保険者としての見解を周知する場を開催して頂きたいです。
- ・コロナのような感染症が発生した時や、今後起こりうる災害発生時、どのような対応ができるのか高齢者のみ世帯や一人暮らし世帯に対して、どのような支援が必要になるのか、対策が必要ではないかと思われます。
- ・利用者の支援をする中で、介護保険では対応しきれない部分をどのように支援していくのか、介護保険以外の支援の検討が必要ではないかと思ひます。
- ・精神面での疾患がみられるご家族、ご利用者に対して、早く市や包括が動けるようになればいいと思われます、虐待など問題が起きてから動くのではなく早めに対応してほしい、ある程度の強制的な引き離しなどでできればと思われます。在宅生活を続けるのが難しい方なども在宅しない方向で対応できればと思ひます。
- ・研修制度の充実の中で、①行政としての新任研修・現任研修・主任ケアマネ研修の機会を毎年位置づけてほしい。(人数制限に伴い、研修参加を諦めてしまっている。偏らないようにしてほしい) ②制度改正などにも伴い行政としての見解③行政としてのBCPの考えをしっかりとアナウンスしてほしい。また、ケアプラン点検なども最近は行えていないようなので、是非行ってもらい、ケアマネジメントの質の向上に繋げられるような機会があると有難い。
- ・ネットを活用できない高齢者へむけての情報発信の仕方
- ・認知症カフェや認知症家族会にも参加しにくい家族・本人の支援方法が何かあれば良いと思う。また子ども食堂のようなお年寄りが気軽に食事に来れるような場所があればよいと思う。
- ・小金井市に夜間対応型訪問介護、随時対応型訪問介護看護の事業所を作ってほしい。それがあつことで救急車の要請が減つたり、独居の方の重症化や緊急事態が減る。
- ・地域包括ケア会議の開催状況が知りたい。
- ・通所介護と医療連携の強化についても具体的な情報があれば提供をお願いします。

(注) 主な意見として回答を抜粋し、原文のまま掲載しています。

問 53 高齢者支援施策について、小金井市へのご意見・ご要望や知りたい情報などがありましたら、ご自由にお書きください。

- ・ケアマネジャーの育成を心がけてほしいです。あとはケアマネジャー業務の理解、処遇等を早めに取り入れてください。
- ・居宅介護支援にむけて集団指導などあるといいかと思えます。
- ・夜間対応型訪問介護を市内で担ってくださる事業所を見つけて頂きたいです。
- ・ケアマネジャーという職種が浸透していると実感しているが、その一方で業務外のことを要望されることが多くなっている。その一つ一つが負担になってきている。またお一人のケアマネジメントに係る時間が長期化している。高齢者福祉に携わる人が減少し、受験資格として、経験年数が必要なケアマネジャーがますます減少している。人材育成やサポートということが必要ではないかと感じている。
- ・社会福祉協議会を利用するために時間がかかる。軽度認知症の高齢者に対して、書類の確認や記入支援のサービスが充実すると思う。
- ・介護保険以外のことでのケアマネへの要望を辞めて欲しい。
- ・市役所にてタブレットをレンタルで持たせ、本人の病気や利用しているサービスなどが入力されている（アプリなどにより）と介護医療の連携も図れるツールになる。また、支援によりネットでの買い物が出来るなど、家族が居ない人は何か一つ買うのも大変な状況なので、そんな事ができると良い。
- ・ケアマネジャー研修を主任ケアマネに絞らず、底上げということを意識してほしい。
- ・いつでもどこでも、知りたい情報や相談などが出来るシステムが欲しい
- ・夜間や緊急時に救急車を呼ばないでよいように、夜間対応型訪問介護や、随時対応型訪問介護看護事業所を作ってほしい。 周辺の市にある事業所はほぼ小金井市まで対応してくれない。作っただけではなく、利用方法などの教育を行い、事業が継続して行けるような取り組みもしてほしい。
- ・インフォーマル支援の充実

(注) 主な意見として回答を抜粋し、原文のまま掲載しています。

第 9 期小金井市介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画の 基本的な考え方（素案）

1 基本理念

（1）人間性の尊重（個人の尊厳）

高齢者が生涯にわたり、地域を支える一員として活躍ができる社会、個人の尊厳が守られ人間性が尊重されるような社会をつくります。また、個人が大切にしてきた生活を継続し、自己実現に向けて活躍できるよう、本人の自己決定を尊重する仕組みを確立します。

（2）自立の確保（自立に向けた総合的支援）

高齢者一人ひとりの心身の状態に応じて、生活の質が確保された状態を維持していくために、「自立・自助」を支える取り組みを、行政の支援による「公助」、介護保険サービス等の「共助」、地域で支え合う「互助」を通じて支援します。

また、高齢者が自分の意思に基づき、その能力に応じて、可能な限り地域で自立した生活を営むことができるよう、生活支援や医療介護、予防等の包括的な支援の仕組みを充実します。

（3）支え合う地域社会づくり

市民、自治会・町会、ボランティアグループ、NPO、医療関係者、介護事業者、民間企業、教育関係、行政等が連携し、地域の資源とネットワークをいかして、豊かな高齢社会に向け、支え合う地域社会づくりを進めます。

2 視点

（1）地域包括ケアシステムの深化・推進

国は、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。

第9期計画では、第8期計画の成果を受けながら、在宅支援の充実と、介護予防・重度化防止等に取り組み、団塊の世代が75歳以上となる令和7年（2025年）を見据えた地域包括ケアシステムを構築し、さらには令和22年（2040年）を見据えて、地域包括ケアシステムを支える介護人材の確保に取り組んでいきます。

（2）地域共生社会の実現

制度・分野の枠や、「支える側」、「支えられる側」という従来の関係を超えて、人と人、人と社会がつながり、一人ひとりが生きがいや役割をもち、助け合いながら暮らしていくことのできる、包摂的なコミュニティ、地域や社会を目指します。

また、複雑化・複合化する地域課題に対する「支援のしづらさ」を改善するとともに、8050問題やヤングケアラーへの対応、生活困窮等の問題を抱える市民の困りごとに対応する重層的支援体制を整備し、伴走支援を行い孤立を防ぐことが重要です。

本市においては、地域包括支援センター、社会福祉協議会の福祉総合相談窓口を中心とした相談支援機関の連携とともに、地域の健康づくりや介護予防の場を充実させ、複合的な課題の相談に対応できる体制の構築を目指します。

（3）介護保険制度の健全な運営

市の介護保険は、これまでの制度改正等に沿って、適正な運営を続けてきました。今後は、後期高齢者が増加していくなか、要介護・要支援認定者数も増加することが見込まれており、介護保険サービスの需要が大きくなります。そのほか、ひとり暮らしの方や高齢者のみの世帯が増加することで、これまで以上に生活支援に関するサービスの需要も高まります。

また、利用者負担割合の負担増や総合事業の利用範囲拡大など、今後も介護保険制度を巡る環境が刻々と変化することが予想されることから、制度への理解を深め、健全な運営を進めるとともに、ケアマネジメントの質の向上や給付の適正化を進め、サービスを必要とする方に必要なサービスが提供され、持続可能性のある提供体制の確保と制度運営を目指します。

3 基本目標と基本施策

基本目標1 生きがいのある充実した生活の支援

高齢者が生きがいを持ち、健康を維持しつつ、それまで培った技能や技術を発揮し、社会のなかで役割を担いながら地域共生社会の一員として活躍ができる、健康長寿の社会づくりを目指します。

また、心身機能が低下したり、生活習慣病、要介護状態にならないように、介護予防・重度化防止のための事業を展開します。特に、近年注目されているフレイル予防については、介護予防の側面からだけでなく、保健事業と一体的に推進することで、より効果的・効率的に進めていきます。

- (1) 健康づくり・介護予防の一体的推進
- (2) 社会参加の促進
- (3) 高齢者の就労支援

アウトカム指標（例）

- さくら体操の会場数（か所）
- さくら体操の延参加者数（人）
- 新規介護予防リーダー養成者数（人）
- 特定健診受診率（％）
- 後期高齢健康診査受診率（％）
- 新たな担い手の稼働率（実働者数/養成者数×100）（％）
- 大会参加者数（人）
- 高齢者いきいき活動講座参加率（延受講人数/延募集人数×100）（％）
- 高齢者いきいきの部屋稼働率（使用時間概数/営業時間概数×100）（％）
- 市内の居場所の情報をまとめた冊子への掲載居場所数（か所）
- 就業率（就業実人員/年度末会員数×100）（％）
-
-
-
- ・・・等

基本目標2 地域で自立して暮らし続ける仕組みづくり

高齢者が住み慣れた地域のなかで、自立して安心した暮らしを続けることができるよう、介護保険以外の福祉サービスを含めて包括的に支援するとともに、認知症高齢者等への総合的な支援、在宅医療と介護との連携等を進めます。

特に、認知症施策に関しては、国の「認知症施策推進大綱」に基づき、認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる「共生」を目指し、「予防」と両輪で取り組みを進めます。

また、家庭における介護負担の軽減を図るため、介護者への支援の取り組みを進めます。

- (1) 在宅生活支援の充実
- (2) 認知症施策の更なる推進
- (3) 在宅医療と介護の連携の推進
- (4) 生活支援体制整備の推進
- (5) ケアラー（介護者）への支援の推進【新規】

アウトカム指標（例）

- おむつサービス登録者数（人）
- 寝具乾燥登録者数（人）
- 住宅改修給付件数（介護保険外）
- ニーズのある地域密着型サービスの整備数【新規】
- 認知症サポーターの累計養成者数（人）
- 計画策定時のアンケート調査による認知症相談窓口の認知度（％）
- 認知症カフェ等の開催場所数（か所）
- GPS 発信機貸与件数
- 見守りシール利用者数（人）
- アンケートによる講座満足度（％）
- 圏域レベルの課題解決に向けた住民主体の協議の場の設置（か所）
- 市内の居場所の情報をまとめた冊子への掲載居場所数（か所）
- 家族介護教室・家族介護継続教室参加者数（人）【新規】
-
-
-
- ・・・等

基本目標3 地域共生社会の実現に向けた仕組みづくりと人材育成

高齢者が、地域で安心・安全に暮らしていくため、また、地域共生社会の実現を目指すため、福祉意識の醸成、地域で互いに支え合う人材育成や仕組みづくりを推進します。

地域づくりについてはかねてより取り組みを進めてきましたが、地域の課題を関係者で共有・解決策を検討し、各々の目的に合わせて集まり、互いに支え合う体制を推進するものとして再整理し、地域共生社会の実現に向けた地域づくりを目指します。

- (1) 地域づくりの推進
- (2) 高齢者の見守り支援の推進
- (3) 権利擁護の推進
- (4) 人材育成・確保の推進

アウトカム指標（例）

- 市内の居場所の情報をまとめた冊子への掲載居場所数（か所）
- 圏域レベルの課題解決に向けた住民主体の協議の場の設置（か所）
- 救急通報システム機器貸与件数
- 友愛活動員数（人）
- 友愛活動事業利用者数（人）
- ひと声訪問利用者数（人）
- 協定事業者数（累計事業者数）
- 消費者講座参加者数（人）
- 介護支援ボランティアポイント有効登録者数（人）
- 介護支援ボランティアポイント参加事業所数（か所）
- 新たな担い手の稼働率（実働者数/養成者数×100）（%）
- 介護職員宿舎借上支援事業対象戸数
- 介護職員初任者研修受講料助成件数
- 介護職員初任者研修受講者数（人）
- ケアプラン点検実施件数
-
-
-
- ・・・等

第9期介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画の体系（素案）

